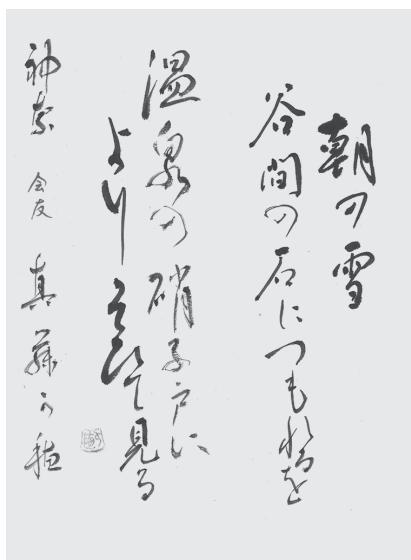
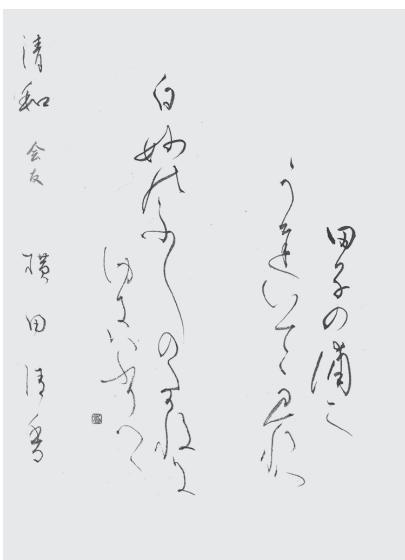


今月の最優秀作品

【新和様半紙】



【かな半紙】



【漢字半紙】



1月提出の競書の写真版全作品は、1月29日（木）より本会ホームページに掲載いたします。

神奈 真藤 可穂 やわらかな墨色で余白を十分にとり、行間の呼びかけもある。一字一字を丁寧に書き、潤滑、太細の変化ある心温まる作。 (審査評 東仲 遙邨)

【新和様条幅】



横浜 高山 華月 自然な流れに柔らかな線と墨彩が温かい。特に下段の「風の音」の群には遠近感があり、品位高く情趣漂つてゐる。

(審査評 二宮 桂秀)

清和 横田 清香 大きな流れで一貫し、ゆったりした筆の運びは品致高く墨色も爽やか。空間の白が作品に安定感をもたらした。

(審査評 中條 琳音)

【かな条幅】



初音 岡本 智子 上下形式で、空間の妙意を得た運腕闊達の作。墨量を控えた弾力ある線はリズムにのって、スケール大きく響きは高い。

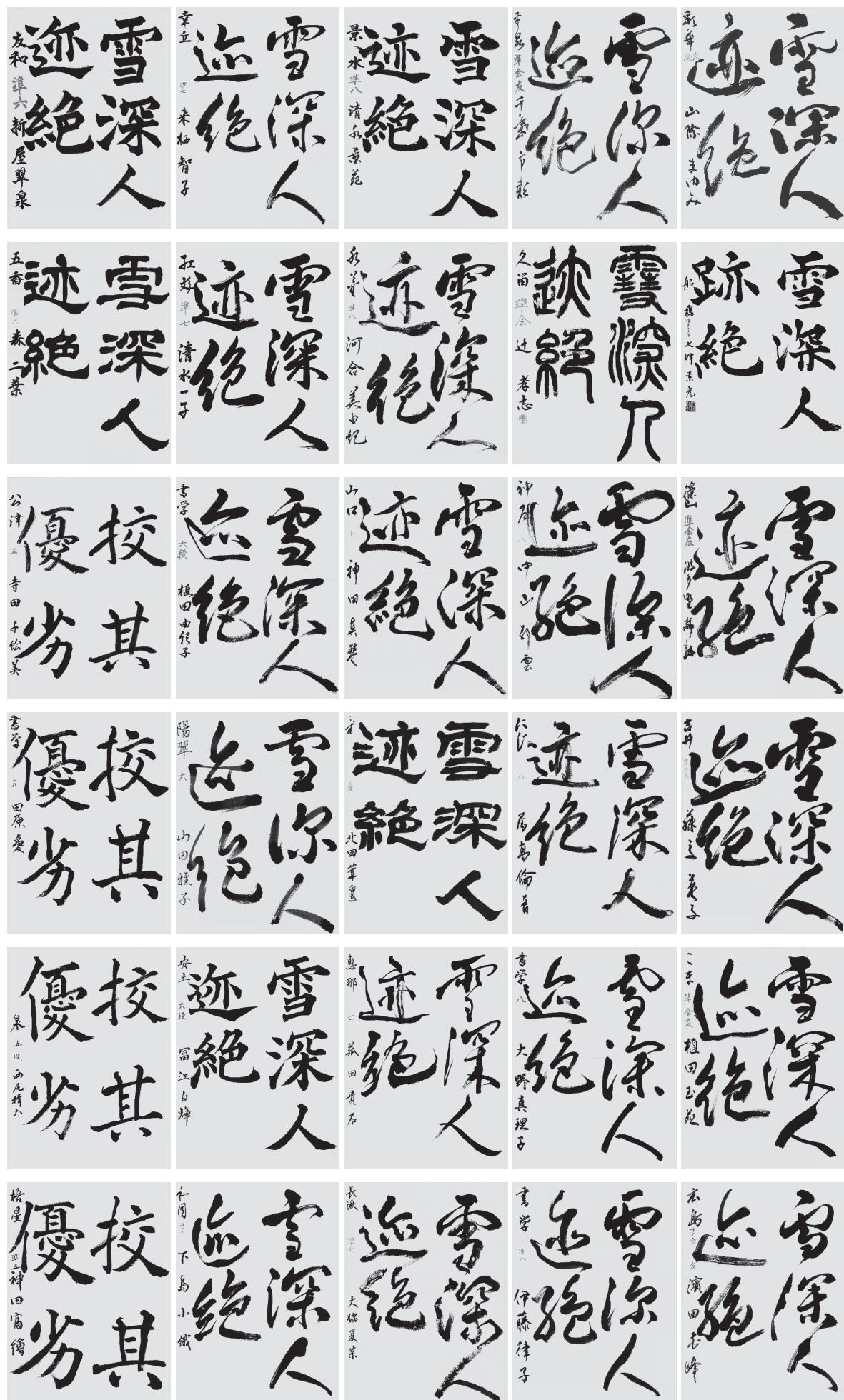
(審査評 中島 永岳)

【漢字条幅】

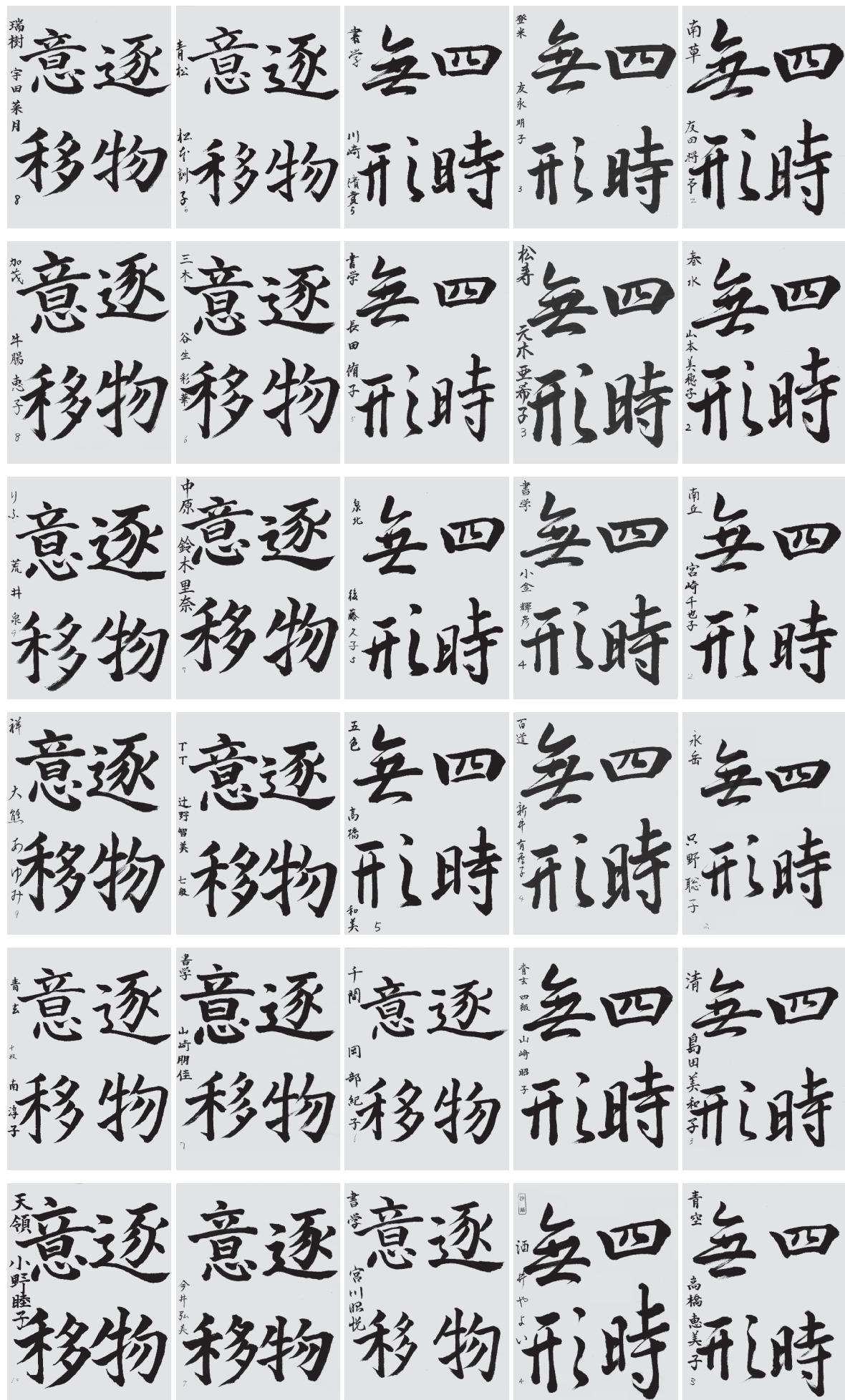


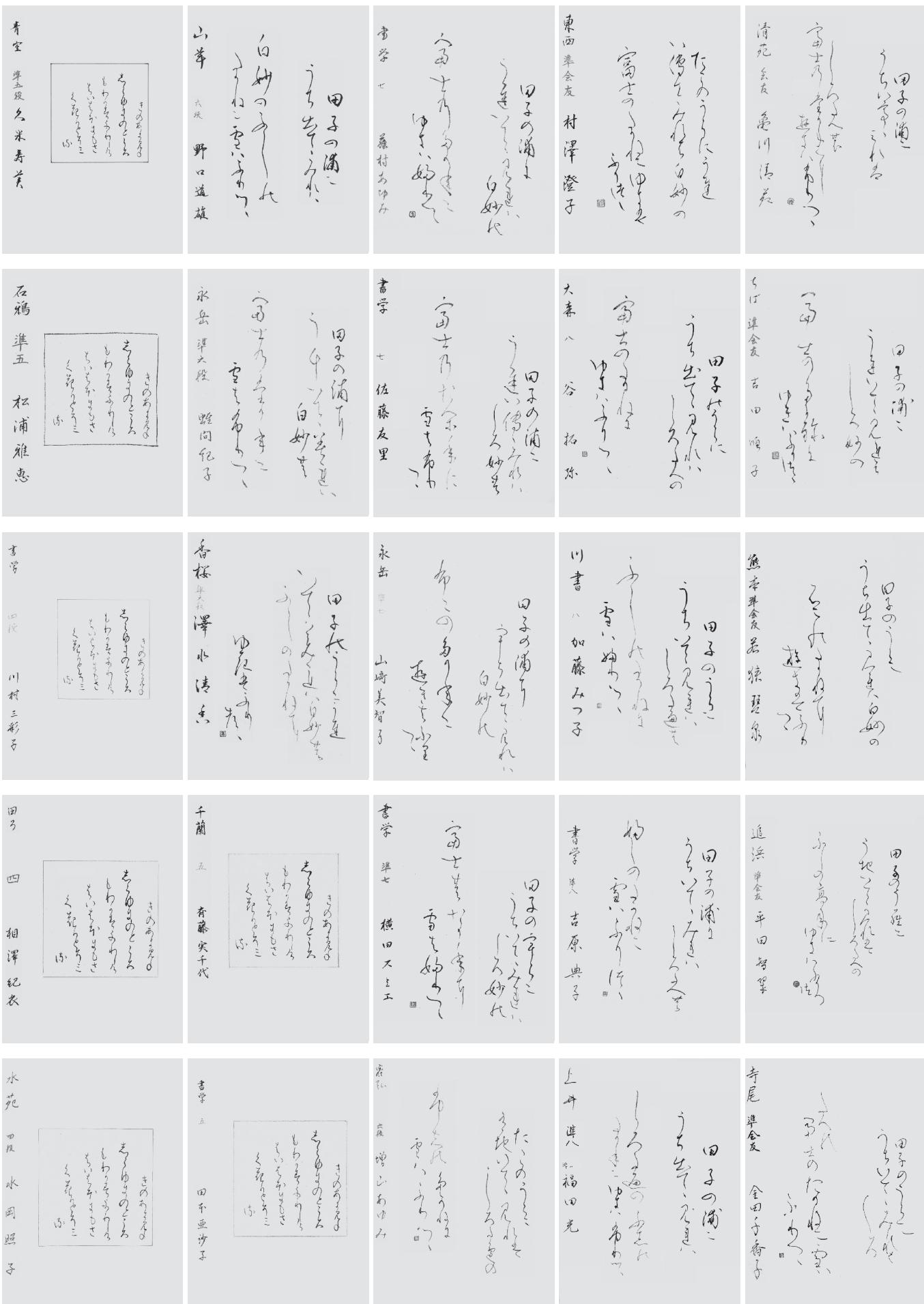
伊賀 石田 春代 渴筆を駆使した淡墨の作品で、余白に負けない筆力を感じる。落款に対する押印にも納得させられる秀作。

(審査評 永井 香樹)



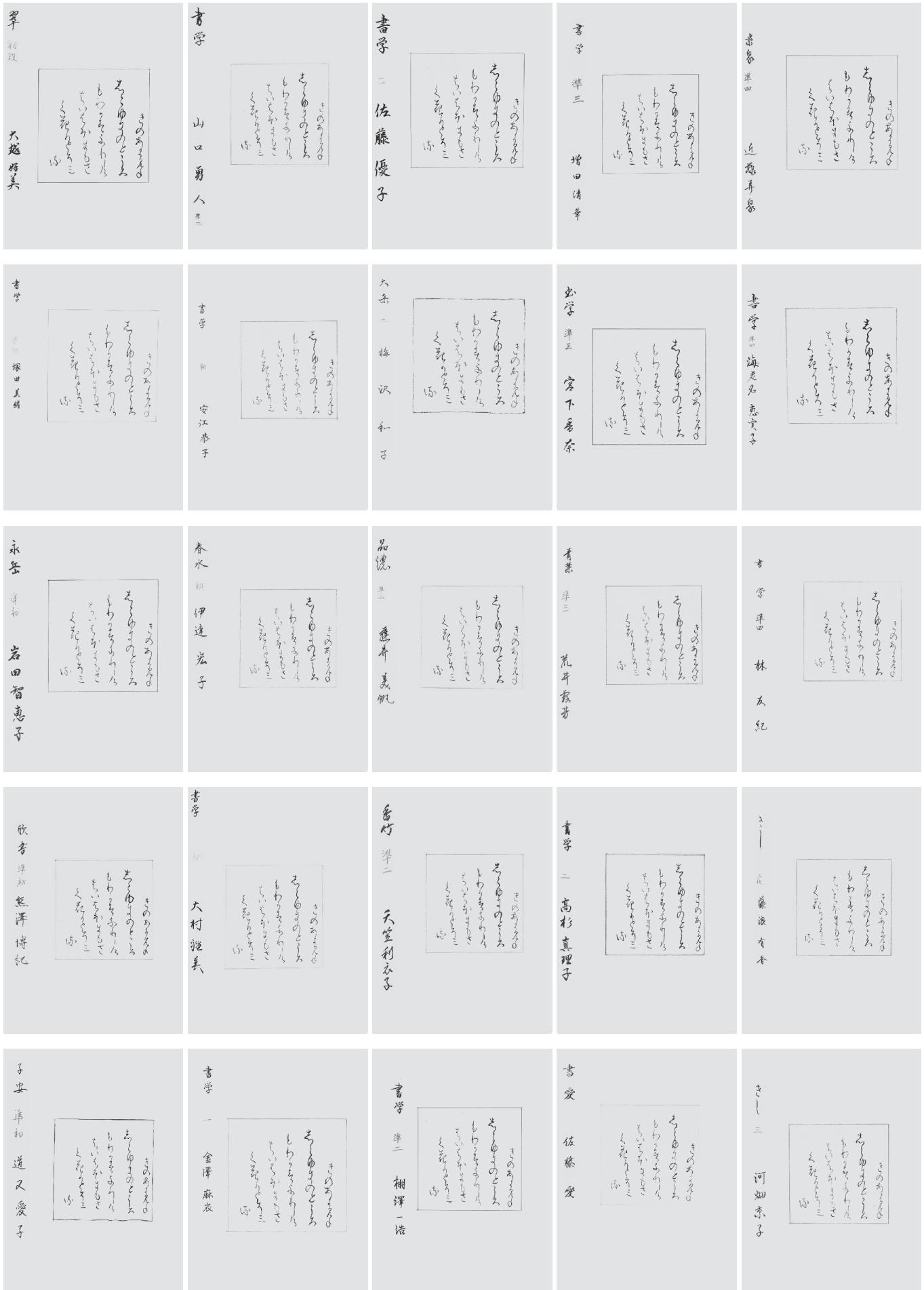






か な 半 紙

今月の優秀作品





新 和 樣 半 紙

今月の優秀作品

朝の雪
冷闇の石
湯泉の硝子すし
和心
若山かほる

霜の雪
筒の石灯籠を
温泉の
硝子戸によがけて
見る

平島漁食亭
著
方歌

栗原
隼人
金蔵
生道

朝雲
江岸の水
伊東嘉慶

The image shows two vertical scrolls of calligraphy. The left scroll, written in cursive script, reads '朝の雪' (Morning Snow) at the top, followed by '雪の朝' (Snowy Morning) in a larger, more prominent section. The right scroll, also in cursive script, reads '書学' (Sho-gaku) at the top, followed by '第八號' (Volume 8) and '山野草集' (Collection of Mountain and Field Plants). Both scrolls are signed '東光' (Tōgō) at the bottom.

朝の雪、春の木
湯屋の壁戸口
とくとく是方

朝の雪谷の
石にもれども
温泉の椅子に
よりそひて見了
書学 準六
及川理佐

朝霞
谷間石に
温泉
内田閑雲
筆

朝の霞
宿間の石に
つもひろと
温泉の硝子戸に
おひるひる
久間玉露

朝
雪
名間
石上溫泉
硝子
不
是
此
處
也
神
茶
新
舊
友
坂
下
茶
水

朝の雪
谷間の石に
「もむきを
温泉の硝子戸に
すりそひて見る
佐賀 薩六 山崎ひとみ

泉林七段 武井一郎 拳
朝の中央官間の
「」に付けるを
温泉の宿子房に寄
り見
永泰 民輪子春

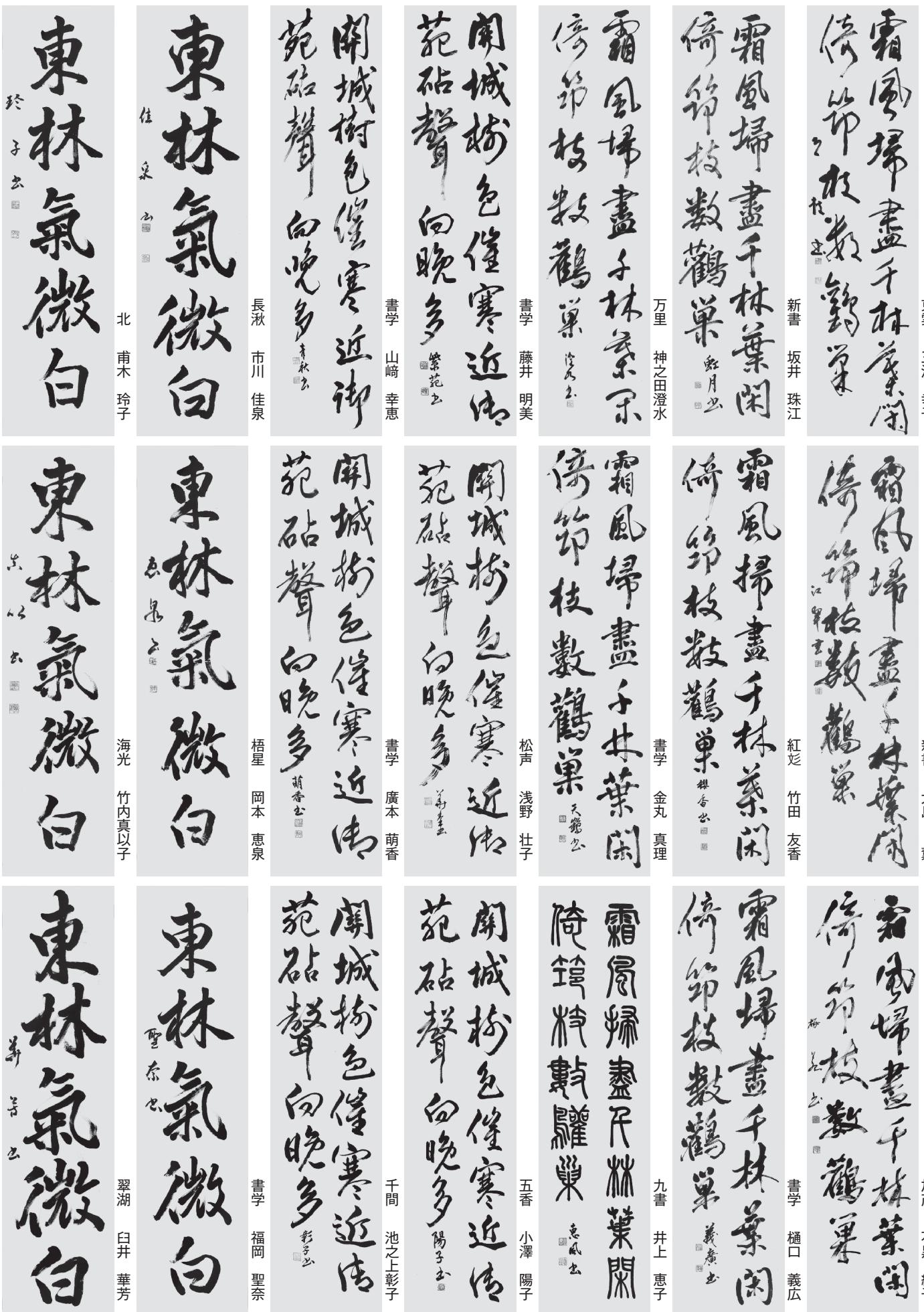
朝の雪谷の
石にてもれ
温泉の硝子戸に
とけりをひく
書字 久保真紀子

朝の雪
宿の石井
温泉の宿子の
上り下り見る

新様和紙







幅 条 条 な か

今月の優秀作品

〇一 高橋 英秀

花の香りが
おもいに
かわいが
りな

書学 唐木真理子

梧星 横木 優子

玉娥 中川 昌代

書学 唐木真理子

梧星 横木 優子

かわいが
りな

かわいが
りな

かわいが
りな

書学 宮下 香奈

加古 井上 梨沙

吉川 坂下 洋子

書学 宮下 香奈

加古 井上 梨沙

かわいが
りな

かわいが
りな

かわいが
りな

書学 香竹 三宅 有里

加古 井上 梨沙

百合 外山 香風

書学 香竹 三宅 有里

加古 井上 梨沙

かわいが
りな

かわいが
りな

かわいが
りな

水茎 佐藤 孝子

紅彩 鈴木 寿美

永岳 暉間 紀子

書学 西原 薫

水茎 佐藤 孝子

長野 岸 久子

川書 加藤みつ子

長野 岸 久子

かわいが
りな

かわいが
りな

かわいが
りな

書学 藤田 理佳

上井 福田 光

百合 外山 香風

書学 西原 薫

書学 藤田 理佳

長野 岸 久子

かわいが
りな

かわいが
りな

かわいが
りな

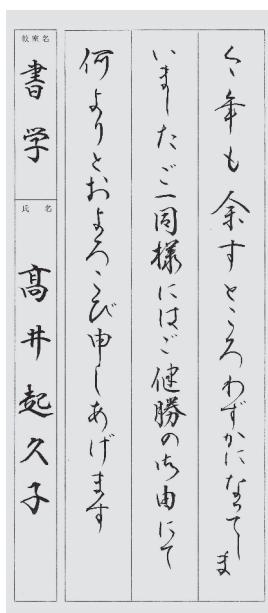
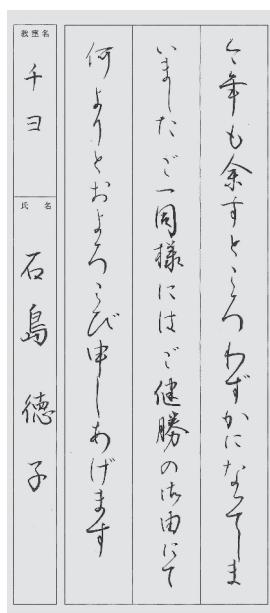
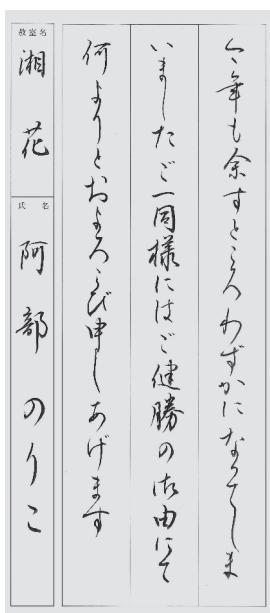
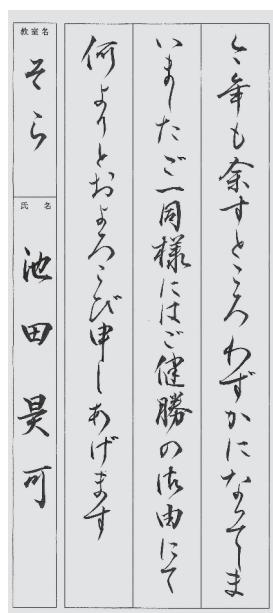
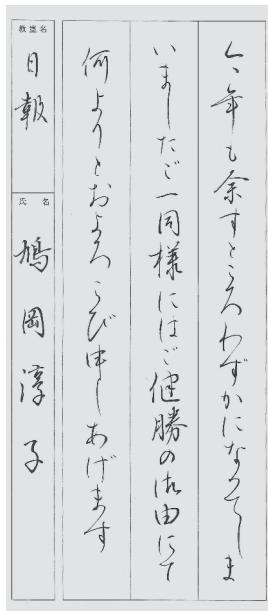
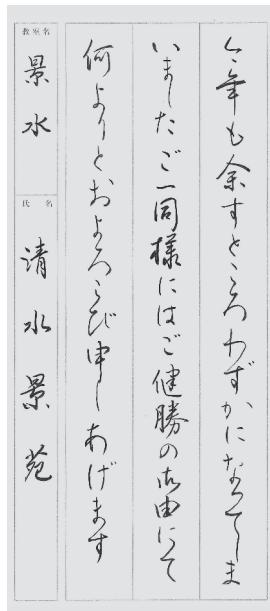
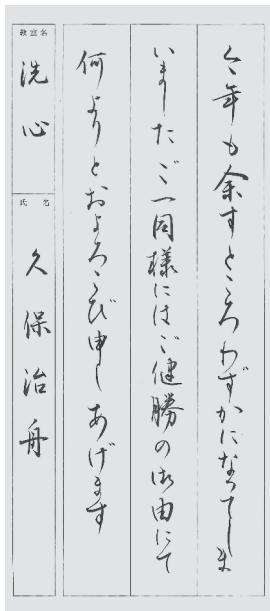
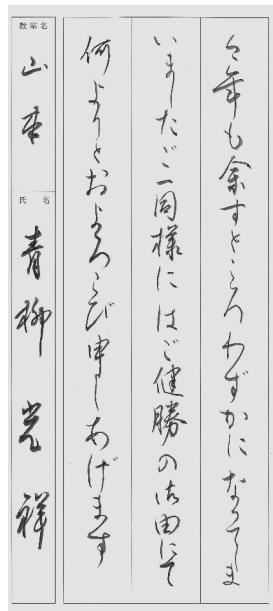
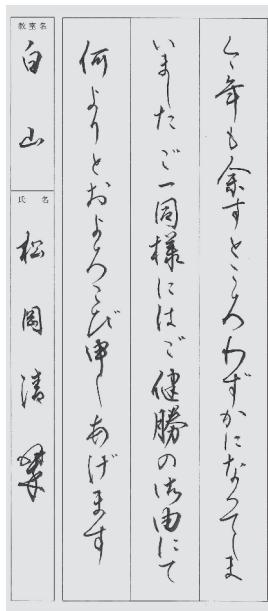
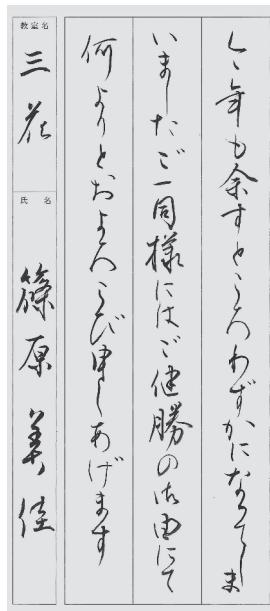
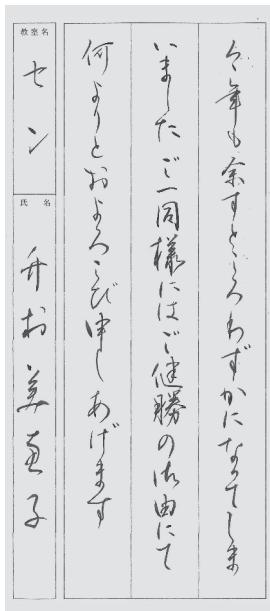
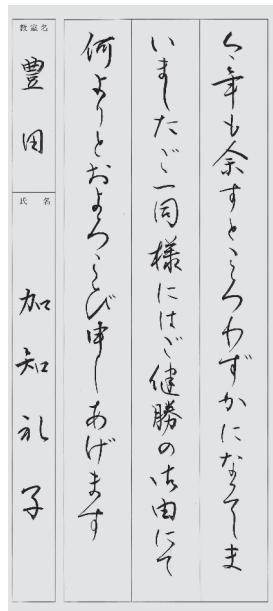
かわいが
りな

書学 上條 直子

書学 上條 直子

实用書

今月の優秀作品



細字

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見
蘊皆空度一切菩尼舍利子色不異空空
異色色即是空空即是色受想行識亦復
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不
不增不滅是故空中無色無受想行識無
耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃
無意識界元無明亦無元明盡乃至無老
亦無死盡無苦集滅道無智亦無得以

紅葉 竹入 絹代

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空
異色色即是空空即是色受想行識亦復
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不
不增不減是故空中無色無受想行識無
耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃
無意識界無無明亦無無明盡乃至無老
無死盡無苦集滅道無智亦無得以無

ちば 吉村 まさ子

上王佛因遠聞此娑婆世界說法華經與無量無邊百千萬億諸菩薩衆共來聽受唯願世尊當為說之若善男子善女人於菩薩若善男子善女人成就四法於如來滅後當得是法華經一者為諸佛護念二者殖衆德三者入必定聚四者發救一切衆生之心善男子善女人如是成就四法於如來滅後必得是經尔時普賢菩薩

習志 安廣 清翠

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中無色無受想行識無眼
耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至
無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死
亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無

Y S 柳瀬佐代子

上王佛國遙聞此娑婆世界說法華經與
无量无邊百千萬億諸菩薩衆共來聽受
唯願世尊當為說之若善男子善女人於
如來滅後云何能得是法華經佛告普賢
菩薩若善男子善女人成就四法於如來
滅後當得是法華經一者為諸佛設念佛
者殖眾德二入正定聚四者發救一切衆生
之心善男子善女人如是成就四
法於如來滅後必得是經尔時普賢菩薩

書學 國吉 利典

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无

金子 金子シゲ子

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中無色無受想行識無眼
耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至
無意識界無光明亦無光明盡乃至無老死
亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以无

書学 宮下 香奈

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中無色無受想行識無眼
耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至
無意識界元無明亦元無明盡乃至元老死
亦元老死盡元苦集滅道元智亦元得以元

書学 濱田 愉子

上王佛國遙聞此娑婆世界說法華經與
无量无邊百千萬億諸菩薩衆共來聽受
唯願世尊當為說之若善男子善女人於
如來滅後云何能得是法華經佛告普賢
菩薩若善男子善女人成就四法於如來
滅後當得是法華經一者為諸佛護念二
者殖衆德三者入正定聚四者發救一
切衆生之心善男子善女人如是成就四
法於如來滅後必得是經尔時普賢菩薩

書学 和久津久美

審査評—秋山 凌雲
規定 「永受嘉福」審査評—松岡 雪華
規定 (羅)

書美の真髓を求める漢字の一字書――



水茎
書学
高見 敏久
漢印特有の古朴で力強い雰
圍気が良く表現されている。
初出品ながら印面全体のバ
ランス感覚に優れている。
感が感じられる秀作。



金文を選定し、文字の偏旁における大小の対比や朱白のバランスが見事に調和している。力強い刻法も秀逸。



書学
石井 孝夫
木印ならではの鮮明な刀痕
が、作品の魅力となっている。
丁寧な鈴印により印影も鮮
やかで力強い。「口」は曲げの
角度が強過ぎるかも。



書学
坂爪 宏甫
漢印特有の古朴で力強い雰
圍気が良く表現されている。
初出品ながら印面全体のバ
ランス感覚に優れている。



隨意
(え)
審査評—松岡 雪華

詩情や筆遣ひの極意を知る平がな表現――



大阪 森口 幸枝
運筆の遅速緩急によ
る表情豊かで自然な連綿が紙面をうね
る。陰翳ある墨色が作品に品致を与え
ている。



広島 好田 萩水
躍動感のある大胆な
筆遊びで紙面を圧し、適度な潤渴によ
り骨力豊かな表現となつた。



高丸 山本 幸子
右側に空間を残し、
思い切った造型が斬新。太細の変化に
よつて余白が生きた。控え目な押印が
作品とよく調和している。



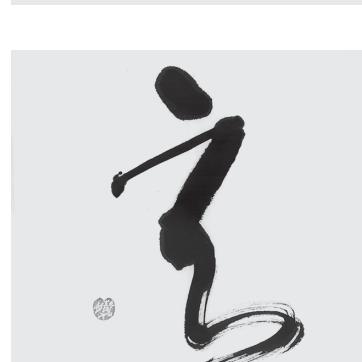
きし 根来 佐枝
金文による造型。
張感のある冴えた線が見事。「佐」の
渴筆が書線に骨力を与えている。



書学
木村 香織
「え」の字源「衣」
を大胆に表現。筆鋒が冴えた豊かな線
質により、滋味溢れる作となつた。



愛山 高田 佳桜
運筆の呼吸が感じら
れる穩やかな作。太細の変化も見事で、
青墨のにじみも美しい。



觀門 下村 静子
筆の開閉による線の
太細の変化に加え、直線と曲線を巧み
に表現している。押印にご留意を。

